

### 【講演の概要】

言語行為の根底にある「誠実性(sincerity)」についてご一緒に考えてみようと思います。「言語行為(speech act)」という用語を初めてお聞きになる方のために、言語学あるいは言語哲学における言語行為という用語の説明から始めます。そしてその代表的な行為である「発語内行為(illocutionary act)」と「発語媒介行為(perlocutionary act)」について概説した上で、それらの行為の成立に欠かせない「誠実性」についてお話しします。ただし、ここで言う「誠実性」は、日常の言葉使いと違い、人に対する「誠実さ」ではありません。

今回の講演では、言語行為論における従来の誠実性の定義に加えて、もう一種類の誠実性があることを様々な事例を通して論証します。加えて、「誠実性」と「正直(honesty)」の共通点と違いについても触れます。できるだけ、初めてお聞きになる方にわかりやすくお話ししたいと思います。

### 【講師紹介】

久保 進（くぼ すすむ）

理論言語学（語用論、とりわけ言語行為論）。神戸市外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了 文学修士。博士（言語文化）（関西外国語大学大学院外国語学研究科：論文博 第6号）。松山大学経済学部教授・松山大学大学院言語コミュニケーション研究科教授を経て、現在松山大学名誉教授。学校法人松山大学より平成14年12月松山大学功労賞（学術研究）を受ける。日本語用論学会において副会長（2期）を務め、現在理事。主な研究業績には、Daniel Vanderveken との共編 *Essays in Speech Act Theory* (John Benjamins)、『言語行為と調整理論』（ひつじ書房）を含む著書22冊がある。七十路を迎え、*Oxford Dictionary of English Language* の翻訳への関与のほか俳句（出湯会、『臺』会員）や川柳の世界へも参入している。